第３講　【古代編】南アジア・東南アジアと南北アメリカの特質

PART2 古代インドの王朝２

Chapter１　クシャーナ朝と大乗仏教の展開

目標
クシャーナ朝とほかの地域との関連性を理解しよう。
大乗仏教の特徴とその影響を学ぼう。

1　クシャーナ朝の成立

マウリヤ朝が衰退すると，西北インドではさまざまな民族や国家が興亡した。

後１世紀　〔　　　　　　〕から自立したイラン系の**クシャーン人**（クシャーナ族）が
　　　　　バクトリア地方から進出し，〔　　　　　　　　　　〕を建国

２世紀　王朝は最盛期を迎え，〔　　　　　　　　　　〕が**プルシャプラ**（現ペシャワール）
　　　　を都として中央アジアからガンジス川中流域までを支配
　　　　①王は仏教を保護し，第４回となる**仏典結集**を行った
　　　　②東西交易の中継で栄え，特に**ローマとの交易**では大量の金がインドにもたらされた
　　　　　※クシャーナ朝が支配した中央アジアから西北インドは，陸路・海路とも東西交易の要衝にあった。

2　大乗仏教の成立と広がり

紀元前後　西北インドは政治的には不安定だったが，仏教は商人をはじめ都市に暮らす多くの人々が支持した
　　　　　→同じ頃，保守・形式化した旧来の仏教（部派仏教）に対し改革運動がおこった

菩薩信仰

自己の悟りよりも衆生（命あるもの）救済が重要で，そのための修行者を菩薩として信仰する考え

①「大きな乗り物」の意味で〔　　　　　　　　〕と自称

②これに対し，自らの悟りのみを目的とする旧来の仏教を小乗仏教（上座部仏教）とした

→菩薩信仰をもとにした大乗仏教の教理は，２～３世紀頃に**竜樹**

（〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕）によって体系化された

※竜樹が唱えた「空」の思想は，その後の仏教思想に大きな影響を与えた。

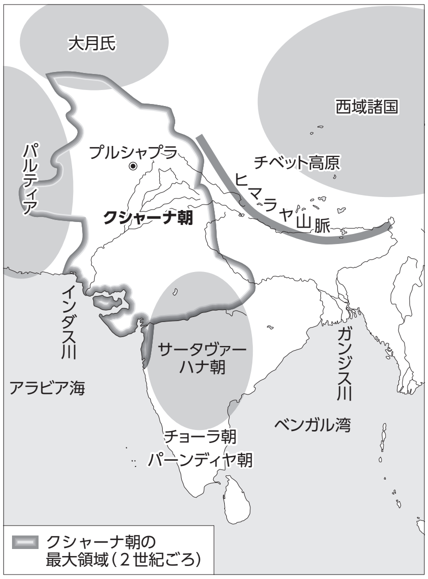
２世紀頃　クシャーナ朝の首都プルシャプラを中心とするガンダーラ地方を中心に，

ヘレニズム文化の影響を受けて〔　　　　　〕が制作されるようになる

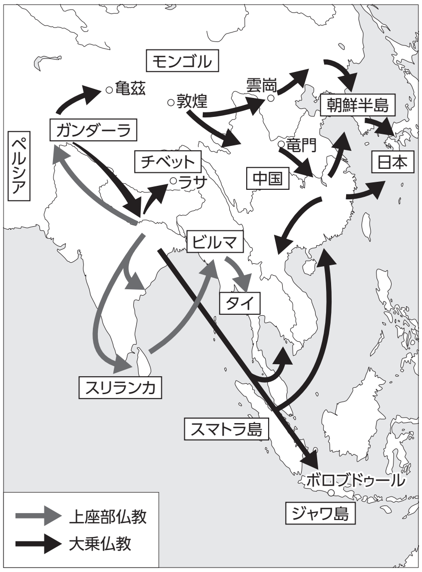
→のちに〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕と呼ばれた

→クシャーナ朝の保護を受けた大乗仏教は，ガンダーラ美術とともに中央アジアから中国・朝鮮・日本へと伝わった

３世紀　クシャーナ朝は西部をイランのササン朝ペルシアに，東部を地方勢力に奪われ滅亡



クシャーナ朝の勢力範囲



仏教の広がり

まとめ

クシャーナ朝が支配した中央アジアから西北インドは，要衝にあったため東西交易で繁栄した。

菩薩信仰を特徴とする大乗仏教は，インドから中央アジア・中国・日本へ伝わった。

Chapter２　グプタ朝とヒンドゥー教の成立

目標
グプタ朝時代の文化の特徴を知ろう。
ヴァルダナ朝以降におこったインドの変化について考えよう。

1　グプタ朝の統治

４世紀前半　ガンジス川中流域でチャンドラグプタ１世が〔　　　　　　〕**朝**を建国。
都はパータリプトラ

４世紀後半　〔　　　　　　　　　　　　〕が北インドの大部分を統一し
最盛期を迎えた→分権的な統治体制

５世紀後半　地方勢力の台頭や，中央アジアの遊牧民**エフタル**の進出により衰退

６世紀半ば　グプタ朝滅亡

インド古典文化の黄金時代

①５世紀初め，中国（東晋）の僧，**法顕**がインドを訪れ『**仏国記**』を著した

②〔　　　　　　　　　　　　〕が設立され，仏教教学の中心として発展

グプタ朝勢力範囲

2　ヒンドゥー教の成立

①グプタ朝の時代，**バラモン教**に民間信仰や慣習が融合して〔　　　　　　　　　　〕**教**が成立

A　**シヴァ神**や**ヴィシュヌ神**などの神々を信仰する多神教

B　ヴァルナごとの義務や生活規範を体系化した『〔　　　　　　　　〕』が成立

②**サンスクリット語**が公用語化

A　戦争叙事詩『〔　　　　　　　　　　　　　〕』と英雄叙事詩『〔　　　　　　　　　　　〕』の二大叙事詩→ヒンドゥー教の聖典

B　詩人・劇作家の**カーリダーサ**による戯曲『**シャクンタラー**』
→サンスクリット文学の代表作

C　インド数字・十進法・〔　　　　〕**の概念**
→イスラーム圏からヨーロッパに伝わり近代科学の発展の基礎となった

D　インド西部の〔　　　　　　　　　　　〕**石窟寺院**
→**グプタ様式**の代表作とされ，中国・朝鮮・日本にも影響を与えた

3　ヴァルダナ朝とインド分立時代

７世紀前半　**ハルシャ王**が〔　　　　　　　　　　　　〕を建国し，グプタ朝滅亡後の北インドを統一
→支配者の多くはヒンドゥー教のほか仏教やジャイナ教も保護

①中国（唐）の僧**玄奘**がナーランダー僧院で仏教を学び『大唐西域記』を著した

②７世紀後半に**義浄**がインドを訪れ『南海寄帰内法伝』を著した

８世紀から 13 世紀まで　北インドはヒンドゥー国家が分立して抗争する時代（**ラージプート**（王の子）**時代**）→**カースト**（ジャーティー）**制度**の基盤も成立

まとめ　二大叙事詩『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』が生まれるなど，グプタ朝時代にインドの文化的・民族的特徴が形成されていった。
ヴァルダナ朝以降，インド各地に諸王国が分立していった。

第３講　PART２　確認問題

1　２世紀半ばのクシャーナ朝全盛期の王はだれか。

①　チャンドラグプタ　②　アショーカ
③　クリシュナ　④　カニシカ

2　クシャーナ朝の都はどこか。

①　パータリプトラ　②　プルシャプラ
③　マトゥラー　④　ナーランダー

3　紀元前後に旧来の仏教に対して生まれた，衆生救済を目指した新しい仏教を何というか。

①　部派仏教　②　上座部仏教
③　大乗仏教　④　小乗仏教

4　２世紀頃にプルシャプラを中心とした地方に発達した仏教美術を何というか。

①　ガンダーラ美術　②　カシミール美術
③　インド美術　④　チベット仏教美術

5　４世紀前半にガンジス川中流域のマガダ地方におこり，第３代王の時に北インドの大部分を統一した王朝を何というか。

①　ヴァルダナ朝　②　グプタ朝
③　パーラ朝　④　チャールキヤ朝

6 ４世紀に北インドの大部分を統一した王朝が公用語化した言語はどれか。

① アッサム語　② ヒンディー語
③ サンスクリット語　④ ベンガル語

7 グプタ様式の代表作とされる壁画が数多く残る石窟はどこか。

① キジル石窟　② エローラ石窟
③ 雲崗石窟　④ アジャンター石窟

8 ７世紀前半のヴァルダナ朝時代にインドを訪れて仏教を学び, 帰国後に『大唐西域記』を著した中国の僧はだれか。

① 法顕　② 玄奘
③ 義浄　④ 鳩摩羅什

第３講　PART２　確認問題 解答

1 解答：④　イラン系のクシャーン人（クシャーナ族）が建てたクシャーナ朝は**カニシカ王**の時代に全盛期を迎えた。

2 解答：②　クシャーナ朝の都はガンダーラ地方の**プルシャプラ**（現ペシャワール）。

3 解答：③　**大乗仏教**は**衆生救済**がより重要であるとする新しい仏教であった。

4 解答：①　クシャーナ朝の首都プルシャプラがあるガンダーラ地方を中心に生まれた仏教美術を**ガンダーラ美術**という。

5 解答：②　**グプタ朝**は第３代王のチャンドラグプタ２世の時代に北インドの大部分を統一した。

6 解答：③　古くからバラモンが使用していた**サンスクリット語**はグプタ朝の時代に公用語化された。

7 解答：④　**アジャンター石窟寺院**に描かれた多くの壁画はグプタ様式の代表作とされる。

8 解答：②　中国の僧，**玄奘**はヴァルダナ朝時代のインドを訪れてナーランダー僧院で仏教を学んだ。